



清流通り

鹿野地域観光振興プラン



ササユリ

もくじ

1. はじめに（策定の経緯、目的）
2. 計画の位置づけ、範囲
3. 地域観光の現状
4. 基本コンセプト
5. 具体的な取組
6. 全体スケジュール（案）
7. 推進体制



1 はじめに（策定の経緯、目的）

鹿野地域は標高約 360～1,000m の高原に位置し、古くから農林業を主産業としてきました。

昭和 46 年に鹿野町役場として建設された現在の鹿野総合支所は、老朽化が進んだことから建て替えが検討され、平成 29 年、市は総合支所をコアプラザかのへ移転する整備方針を決定し、翌 30 年に市民説明会を実施しました。その折、平成 31 年に基本設計に着手し、平成 34 年の供用開始を公表しましたが、現地での建て替えという強い要望があり保留状態が続きました。

その後、令和 2 年に県が新たに公表したハザードマップにおいて移転候補地の一部が河岸浸食エリアにかかることが判明し、計画は一旦白紙に戻る事態となりました。

再検討にあたり、人口減少が続く鹿野地域の数世代先の姿を想定して、移転が持続可能な地域づくりに役立つよう、旧鹿野公民館を解体し、その跡地へ移転することとしました。

また、現在の総合支所の周辺は、清流通りをはじめ、漢陽寺、天神山公園などの豊かな地域資源があることから、立地を生かした観光交流拠点として整備することにしました。

本プランは観光交流拠点の整備を契機として、鹿野地域の観光振興のコンセプトを示し、今後の施策の方向性や観光交流拠点のあるべき姿を描くために策定するものです。

本市は、令和 2 年に第 3 期周南市観光ビジョン（以下「観光ビジョン」という。）を策定し、「人と自然と産業が輝きを魅せる 賑わいあふれる おもてなしのまち周南」を基本理念とし、重点施策のひとつとして「日常をときほぐす観光」を掲げています。

鹿野地域は周囲を山々で囲まれ雨も多く、その懐を源とする水は県下最長の大河・錦川となり、四季の美が映える山紫水明の地です。江戸時代に山代街道沿いに形成された町並みは、交易や領地管理の中心地として栄えた面影があり、歴史的、文化的な資源も数多く残されています。なかでも、「漢陽寺庭園」は令和 3 年に国登録記念物に登録され、造園文化の発展に貢献した意義深い事例として改めてその価値が広く知られるところとなっています。

このように鹿野地域は多彩な地域資源に恵まれ、「日常をときほぐす観光」の舞台にふさわしい資質を有しています。本プランの推進により、鹿野地域の「新たな観光」の定着を目指します。

2 計画の位置づけ、範囲

鹿野地域観光振興プランは、観光ビジョンにおける重点施策「日常をときほぐす観光の展開」の鹿野バージョンという位置づけとします。

また、本プランの策定にあたっては、鹿野地区夢プランなど、他の計画、プランとの整合を図ります。

計画期間は、令和4年度から令和10年度までとします。

ただし、観光ビジョンの計画期間が令和6年度までであるため、令和6年度までを前期プランとし、残りの期間を後期プランとして、次期ビジョンを策定する際には整合を図ることとします。

計画のエリアは鹿野地域全体とします。

拠点

現鹿野総合支所敷地

中心エリア

現鹿野総合支所敷地を中心に、散歩感覚の徒歩、自転車などにより比較的気軽に回遊し散策、できる範囲。

周辺エリア

総合支所敷地周辺を拠点に、ハイキングやトレッキングなどの徒歩、自転車や自動車などの交通用具などによる移動を要する範囲。市北部地域を含む。



3 地域観光の現状

観光客の状況

鹿野地域の主な観光地の利用者数の推移

利用者数は漢陽寺で増加がみられるものの、合計では平成 28 年をピークに減少傾向にあります。令和 2 年は、新型コロナウイルス感染症の拡大により国の緊急事態宣言が発令され、施設の利用制限が行われたことや移動の自粛が浸透したことなどにより大きく減少しました。

全国的な観光形態の傾向は、過密を避け、自宅から比較的近い地域での「近場の観光」の割合が増加しており、恵まれた自然環境のもとで余暇を楽しみながら仕事を行う「ワーケーション」などの新たな形態も注目されつつあります。

コロナ禍は観光形態を確実に変化させていることから、受け入れる地域は旧来の観光地づくりからの脱皮がますます求められています。

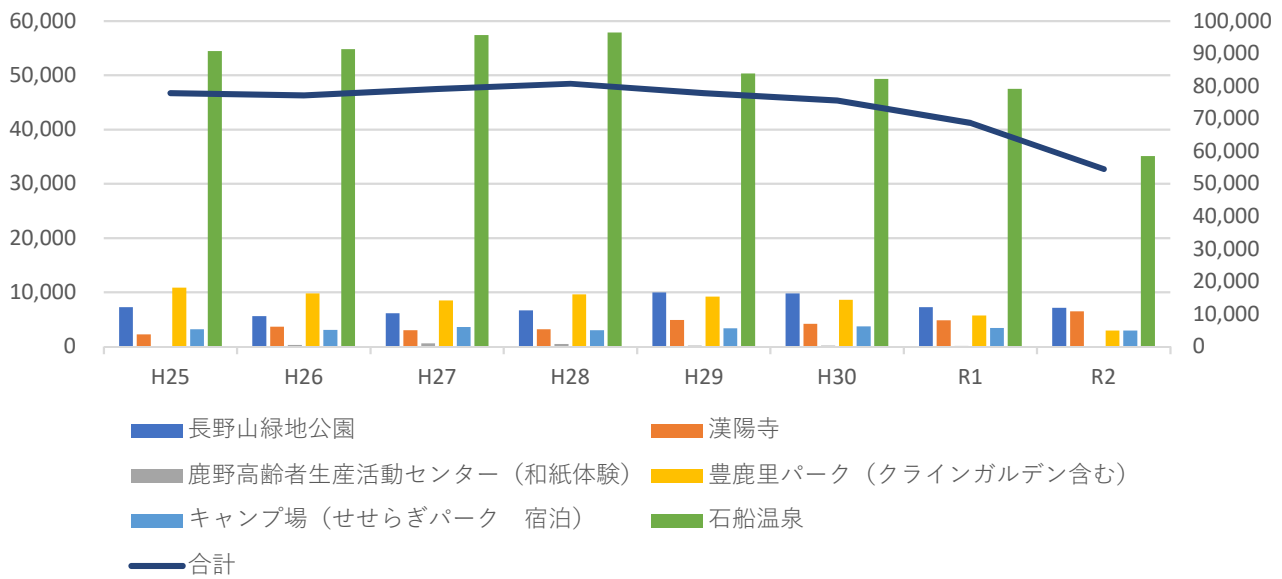
鹿野地域においてもアウトドア志向が強くなり、楽しみ方の多様化が見られます。なかでも、桜や、ホテル、アサギマダラ、漢陽寺の庭園、紅葉、田園の景色など、四季折々の自然や懐かしい景観に身を置き情趣を楽しむニーズも増加しています。

また、島根県と接し、中国自動車道鹿野インターチェンジがあるという立地から、自然を求めて県外からの観光客も増えつつあります。

自由な思いで美しい自然や懐かしい土地に身を置き、地域の歴史や文化をゆったりと楽しむ「日常をときほぐす観光」は、こうした時代の趨勢に沿う観光形態といえます。



鹿野地域の主な観光地の利用者数推移

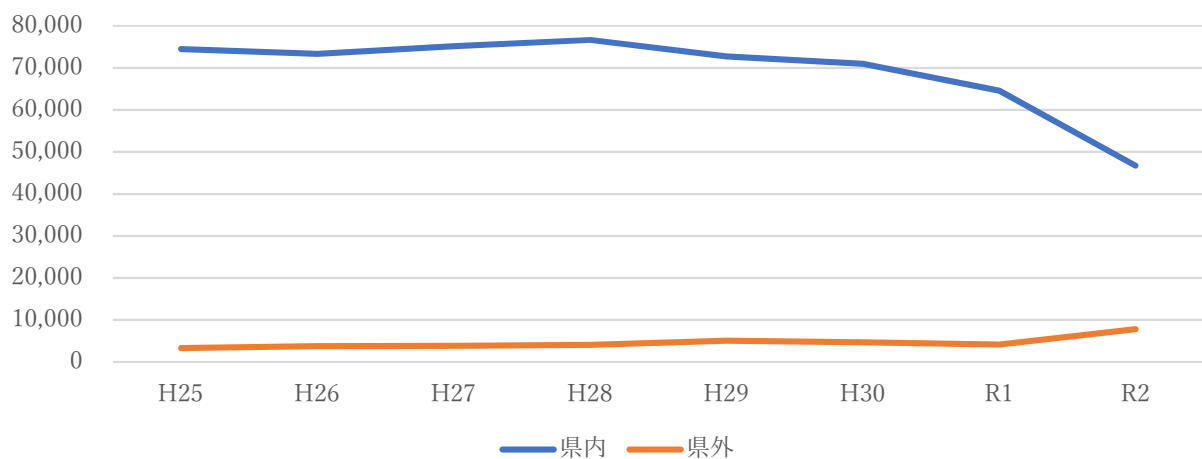


鹿野地域の主な観光地の利用者数推移

利用者数:人

観光地	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
長野山緑地公園	7,245	5,599	6,111	6,649	9,942	9,775	7,255	7,089
漢陽寺	2,210	3,650	2,980	3,180	4,880	4,170	4,810	6,465
鹿野高齢者生産活動センター(和紙体験)	0	276	533	438	172	156	110	0
豊鹿里パーク(クラインガルデン含む)	10,807	9,775	8,465	9,617	9,196	8,564	5,712	2,935
キャンプ場(せせらぎパーク 宿泊)	3,131	3,031	3,587	2,990	3,302	3,675	3,392	2,933
石船温泉	54,428	54,826	57,421	57,881	50,344	49,301	47,462	35,115
合計 (うち県内客数)	77,821 (74,527)	77,157 (73,371)	79,097 (75,215)	80,755 (76,679)	77,836 (72,775)	75,641 (70,970)	68,741 (64,578)	54,537 (46,735)

鹿野地域の主な観光地の県内外利用者数の推移



地域資源（自然、施設、地域活動など）

鹿野地域は、高原状の大地に豊かな自然が広がり、日本海と瀬戸内海の分水嶺となる県境の山々では降水量が多く、山肌にしみ込んだ水が集い、清流錦川を形作っています。

この豊かな水は、ブナ、^{かし}榎、^{しい}椎、^{くぬぎ}櫟、^{ひのき}杉や^{ひのき}檜などの樹木、ササユリ、カタクリなどの草花をはじめ、多種多彩な生物と無数の「いのち」を育んでいます。里山では田畑を潤わせ、人々の営みを支えています。水の循環は「いのち」の循環と重なり、そのリアルな姿を見ることができます。

また、この地域で培われた文化や歴史、里山の暮らしの知恵に出会えることも魅力です。近年は、自然のなかで暮らしを楽しむ人たちとのふれあいが鹿野地域の好感度を向上させています。

「日常をときほぐす観光」の資源は資源一覧に記載されたものだけではなく、訪問者が心を動かされるものすべてが資源となります。



鹿野地域の資源一覧

項目	主な地域資源
自然	【山岳】^{おらとみやま} 弟見山、^{ばふんがだげ} 馬糞ヶ岳、^{あだみがだげ} 長野山、^{きんほうざん} 石ヶ岳、^{きんほうざん} 金峰山、^{ライオン岩} 岩尾山（ライオン岩）、天神山、^{蔵掛山} 蔵掛山、^{姫岩} 姫岩、^{撒骨山} 撒骨山、^{円山} 円山、^{飯ヶ岳} 飯ヶ岳 【河川、溪谷】^{錦川} 錦川、^{渋川} 渋川、^{奥畑川} 奥畑川、^{栗の木川} 栗の木川、^{赤滝} 赤滝、^{五万堂溪谷} 五万堂溪谷 【桜】^{だんじょういとざくら} 弾正糸桜、^{きんしょうざくら} 金松桜、^{石船温泉} 石船温泉、^{天神山公園} 天神山公園、^{せせらぎパーク} せせらぎパーク、^{金峰の里} 金峰の里 【カタクリ】^{おらとみやま} 弟見山 【シャクナゲ】^{天神山公園} 天神山公園、^{大潮神社} 大潮神社 【菖蒲】^{清流通り} 清流通り 【ササユリ】^{長野山緑地公園} 長野山緑地公園、^{天神山公園} 天神山公園、^{弟見山} 弟見山 【アジサイ】^{長野山緑地公園} 長野山緑地公園 【紅葉】^{長野山緑地公園} 長野山緑地公園、^{漢陽寺} 漢陽寺、^{五万堂溪谷} 五万堂溪谷 【山野草】^{山野草のエキ} 山野草のエキ ホタル、ヒメボタル、アサギマダラ、^{蝉しぐれ} 蝉しぐれ、^{ヒグラシ} ヒグラシ、^鮎 鮎、^{みずすまし} みずすまし、^{あめんぼう} あめんぼう、^{うぐいす} うぐいす、^{野鳥} 野鳥、^{秘密尾の水見神社} 秘密尾の水見神社、^{社叢} 社叢、^{飯桐} 飯桐、^{彼岸花} 彼岸花、^{ベニドウダン} ベニドウダン、^{サツキマス} サツキマス、^{蛙の合唱} 蛙の合唱 中国自然歩道 田園風景、青空、星空、雪景色、澄んだ空気、朝霧、夕焼け、夕立、霜柱、つらら、虫の声、水の音、鳥のさえずり、吹雪、ゆきあいの空、苔むす参道 など
歴史・文化・生活	【平成の名水百選】^{潮音洞} 潮音洞、^{清流通り} 清流通り 【神社】^{二所山田神社} 二所山田神社、^{氷見神社} 氷見神社、^{多賀神社} 多賀神社、^{宝作神社} 宝作神社、^{三嶋神社} 三嶋神社、^{稲荷神社} 稲荷神社、^{大潮神社} 大潮神社、^{熊野神社} 熊野神社、^{貴布祢神社} 貴布祢神社、^{金峰神社} 金峰神社、^{潮明神社} 潮明神社、^{三所神社} 三所神社 【仏閣】^{鹿苑山漢陽寺} 鹿苑山漢陽寺、^{龍雲寺} 龍雲寺、^{薬師寺} 薬師寺、^{長久寺} 長久寺、^{真行寺} 真行寺、^{極楽寺} 極楽寺、^{光雲寺} 光雲寺、^{光照寺} 光照寺、^{玉真寺} 玉真寺、^{中山観音堂} 中山観音堂 【国登録記念物（名勝地関係）】^{漢陽寺庭園} 漢陽寺庭園（^{重森三玲} 重森三玲作庭の6庭園） 山代街道、鹿野街道 鹿野民俗資料展示室 岩崎想左衛門重友像、筑紫歌都子の碑、^{種田山頭火} 種田山頭火の句碑 御朱印、おみくじ、女子道社、鹿野八十八か所、祠、奴道中、長持ち、網代 方言、昔話、遊び、手仕事（手漉き和紙、お茶、みそ、漬物、梅干しなど） など
施設・買物・食・体験	【施設】^{石船温泉} 石船温泉、^{せせらぎパーク} せせらぎパーク、^{豊鹿里パーク} 豊鹿里パーク、^{長野山緑地公園} 長野山緑地公園、^{新平ヶ原公園} 新平ヶ原公園、^{天神山公園} 天神山公園 中国自動車道鹿野インターチェンジ 【産物】^米 米、^{鹿野高原豚} 鹿野高原豚、^{そば} そば、^{鹿野和紅茶} 鹿野和紅茶、^{わさび} わさび、^{シイタケ} シイタケ、^{トマト} トマト、^{ハウレンソウ} ハウレンソウ、^{なし} なし、^{大豆} 大豆、^{柏餅} 柏餅、^{こんにゃく} こんにゃく、^{豆腐} 豆腐、^{油揚げ} 油揚げ、^{山代和紙} 山代和紙 【店舗】^{ふるさとマルシェかの} ふるさとマルシェかの、^{大潮田舎の店} 大潮田舎の店、^{カフェ} カフェ 【食、調理、就農体験】^{豊鹿里パーク} 豊鹿里パーク 【紙すき】^{鹿野高齢者生産活動センター} 鹿野高齢者生産活動センター 【観光農園】^{福田果樹園} 福田果樹園、^{石光果樹園} 石光果樹園 【写経、写仏、座禅】^{漢陽寺} 漢陽寺、^{光雲寺} 光雲寺 【釣り堀】^{豊鹿里パーク} 豊鹿里パーク など
行事・イベント	【春】^{さくらまつり} さくらまつり、^{里山オープンガーデン} 里山オープンガーデン、^{鹿野を切り撮れフォトコンテスト} 鹿野を切り撮れフォトコンテスト 【夏】^{ホタル祭り} ホタル祭り（^{豊鹿里パーク} 豊鹿里パーク、^{大潮} 大潮）、^{天神山まつり} 天神山まつり、^{地域の盆踊り} 地域の盆踊り（^{さんさ踊り} さんさ踊り） 【秋】^{かのふるさとまつり} かのふるさとまつり、^{ルーラルフェスタ} ルーラルフェスタ、^{燈籠流し} 燈籠流し 【冬】^{かの冬花火} かの冬花火 ^{堤区宿入奴} 堤区宿入奴、^{網代} 網代、^{鹿野さんさ踊り} 鹿野さんさ踊り、^{かくれがマルシェ} かくれがマルシェ など

4 基本コンセプト

～日常をときほぐす観光～

「まるごと図鑑になるまち・かの」

鹿野地域には、四季折々の美しく豊かな環境や長い歴史、自然と共生してきた生活の知恵など、多くの地域資源があふれています。その魅力は、私たちに美しい写真や色鮮やかなイラストを満載した図鑑を連想させるほどのものがあります。

本プランでは、鹿野地域の歴史や自然といった地域資源の価値と分布の多彩さを象徴的に表現して、

「まるごと図鑑になるまち・かの」をコンセプトとします。

図鑑とは「写真や図を系統的に配列して解説を加えた書物」です。

鹿野地域を一冊の図鑑に見立てて編集することは、鹿野地域の観光を訪問者の立場に立って分かりやすくイキイキと組み立てていくことの例えです。

編集には記載するコンテンツの収集や解説、読者が次のページをめくりたくなる仕掛けが必要です。ここに観光振興と共通する要素を見出すことができます。

山紫水明の地・鹿野では、雪月花の「美」が日常のなかに溶け込んでいます。また、五万堂溪谷や長野山をはじめ、地域のいたるところで希少な動植物に出会うこともできます。こうした環境の魅力は、図鑑の1ページを飾るにふさわしいコンテンツとなります。

また、先人が切り開き、守り、現代まで受け継がれてきた生活には歴史、ストーリーがあり、それも重要なコンテンツとなります。

コンテンツには地域の人たちが気づいていないものや、学術的な価値がよく伝えられていないものなども含まれます。地元では「なんでもない、どこにでもある」と思われているものに「本物の鹿野地域」の姿が発見できたり、訪問者の感動を呼ぶケースが多々あります。

また、編集には系統的で分かりやすい説明や解説が必要となりますが、旧鹿野町時代から積み重ねられた様々な研究や知見を有効に活用することで、内容の充実が可能になります。

このコンセプトは、地域の人たちが観光資源への知識や理解を深め、自信を持って自らの地域を語れることを基盤としています。そのため、誰もが地域資源や新たな観光地づく

りについて学び、対話できる「学びの場」が不可欠となります。

そして、学んだ知識を訪問者へ伝えたり、一緒に体験したりすることで交流が生まれ、他の地域にはないおもてなしとなり、訪問者のまた来たいという思いにつながります。

訪問者に図鑑をめくる時の感覚で歴史と自然がこだまする鹿野地域を楽しんでもらうこと、訪問者と地域の人たちが交流を通じて地域への理解を深めること、育まれたストーリーを次世代につなげ、地域の持続性を高めていくこと、それが「まるごと図鑑になるまち・かの」の考え方です。



5 具体的な取組

ハード事業

○観光交流拠点の整備

現在の鹿野総合支所の周辺が「日常をときほぐす観光」の拠点エリアとなります。コアとなる観光交流拠点は、地域観光の拠点性や地域づくりの先取的な機能が求められます。

整備にあたり、本事業が総合支所の移転に伴うものであることから、その趣旨を踏まえて進めること、「訪れてよかった」という訪問者の高い満足度に結びつくこと、地域の人たちが地域への愛着や誇りの醸成の場となること、などに留意する必要があります。

具体的には、観光情報や休憩、飲食などに加え、訪問者と地域の人たちの交流や地域を「語り合い学びあう場」などの設備、「ワーケーション」や「サテライトオフィス」としてのスペースの確保、チャレンジショップの併設などが考えられます。

【考えられる機能】（研究・検討事項を含む）

- ・観光情報機能
- ・いこいの場所（公園、くつろぎのスペース）
- ・休憩飲食機能
- ・地域住民や団体、来訪者の交流機能
- ・地域に関する研究、学習機会の提供機能
- ・チャレンジショップ機能（女性や若者の起業支援）
- ・地域研究機能
- ・2次交通のステーション機能
- ・ワークスペース（テレワーク、コワーキングスペースとしての利用） など

○資源の有効活用のための整備

- ・観光スポット、ルートの整備
- ・既存資源の修景

○既存観光施設と連携

既存の観光施設についても、「日常をときほぐす観光」の趣旨に沿い、本プランのコンセプトが生きるサービスが提供され、来訪者の満足度が向上するよう、指定管理者と連携や調整を行います。

○景観への配慮

新たな観光交流拠点の整備をはじめ、ハード整備や維持管理においては、周辺の景観との調和を図り、「上質な配慮」が行き届くように取り組みます。

○環境への配慮

脱炭素化への配慮を織り込んだ整備を目指します。

ソフト事業

○日常をときほぐす観光事業

新型コロナウイルス感染症は、観光形態の変化を急激に進め「遠く」から「近く」へ、「団体」から「個人」への流れを決定的なものにしつつあります。

また、「脱炭素」の進展はエネルギー政策や企業の生産活動のみならず、人々の行動形態にも影響しており、観光客の意識や価値観、訪問先でのモラルなどにも変化が見られます。以前のような、大量消費を伴う観光形態は敬遠される傾向が一層強まると考えられます。

こうしたなか、本市が進める「日常をときほぐす観光」は、個人の思いや欲求に基づい

て満足度の高い観光の舞台を提供しようとするものであり、地域の観光マネジメント力が問われてきます。

本事業では観光マネジメントを支えるデジタル技術の導入を積極的に図り、データの収集分析や情報の発信力を高め、科学的に効果的な事業運営に努めることとします。周南公立大学や民間と連携して「知の力」を活用した取り組みも積極的に進めます。

【主な取組】（研究・検討事項を含む）

〈資源管理とデジタル化〉

- ・地域資源、コンテンツの研究、整理、掘り起こし
- ・地域文化に関する研究、伝承、保存、データベース化
- ・観光案内のデジタル導入
- ・観光データの収集、分析

〈情報の発信〉

- ・Web サイトや QR コードの活用、充実
- ・V Rなどを活用した映像体験コンテンツなどの制作
- ・シティプロモーションと連携した情報発信



日常をときほぐす観光 Web サイト

〈観光の質を高めるためのサポート〉

- ・自転車や超小型EVを活用した2次交通サービスの検討
- ・体験型観光の推進
 - （例）若者向けのアクティビティの導入
 - 家族が一緒になって楽しめる体験メニューの開発
- ・ワーケーションやテレワーク利用の推進
- ・来場者数だけにとらわれない満足度の高いイベントの実施

〈観光マネジメントの質的向上〉

- ・地域で活動する人材の育成（散策コーディネーター、ガイド、語り部）
- ・運営を担う人材の確保と養成
- ・公立大学法人周南公立大学との連携
- ・小中高等学校、徳山高専などとの交流や連携

〈景観・自然環境の保全〉

- ・景観保全に対する住民意識の醸成
- ・環境保全のためのルール作りや周知活動
- ・景観維持のための適切な管理の実施

〈訪問者の安心安全の確保〉

- ・訪問者の安心安全のための窓口機能や情報発信
（例）河川や積雪の状況などの天候に関する情報提供
山火事やクマ出没情報などの緊急情報の提供
遭難、病気、怪我などの緊急連絡先の提供



6 全体スケジュール（案）

全体のスケジュールは次のとおりです。

観光交流拠点の整備は旧鹿野公民館の解体と新総合支所の整備の進捗状況によりますが、可能な限り早期の供用開始を目指します。

	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10
現総合支所解体、跡地造成				解体 ←→	造成 ←→		
観光交流拠点整備	機能の検討 ←→		設計 ←→		整備 ←→		供用開始 ←→
日常をときほぐす観光の推進	←→	←→	←→	←→	←→	←→	←→
(参考)鹿野総合支所整備	現公民館解体・造成 ←→	整備 ←→			供用開始 ←→		

7 推進体制

本プランは、「日常をときほぐす観光」の鹿野バージョンとして、「まると図鑑になるまち・かの」をコンセプトに、鹿野地域に「新たな観光」を定着させるためのものです。

市、鹿野地域、周南公立大学などの教育機関・団体が連携して、知恵を出し合い、力を合わせて、「日常をときほぐす観光」の推進により、地域貢献の最大化を目指します。



鹿野地域観光振興プラン

令和4（2022）年3月

編集・発行：周南市（地域振興部観光交流課）

〒745-8655 山口県周南市岐山通1-1

電話 0834-22-8372

Eメール kanko@city.shunan.lg.jp